

## 第4回京丹波町総合計画審議会（福祉厚生部会）議事録要旨

令和7年2月19日（火） 午前10時40分～11時45分

開催場所：京丹波町役場 112会議室

<出席委員>堀内委員、津田委員

### 4. 部会による協議

（事務局より趣旨説明）

#### 【意見交換】

事務局：総合計画実施計画の事業について議論を進めていくとともに、総合戦略の概要版の5つの基本目標を参考にしながら、意見交換を進めてきたい。また、第3期総合計画の策定については、来年度から進めていくので、ご意見いただきたい。

委員：介護サービスを必要とされる方々も人口減少とともに減少していくので、計画を立てるなかで反映させていく。一定、ここまでは増加していくことは想定したなかで進めているが、違う観点で様々なサービスの提供を考えている。皆さんが同じサービスではなく、多様化による必要とされるところを見極めるのが難しい。

事務局：デマンドタクシーの実証事業を始め、利用者は増加しているが、福祉有償は減少しており、利用者のニーズが変わってきている。

委員：これまでは、高齢者や障がい者の交通手段のない方のみが対象であったが、今は子どもたちなども利用できる交通手段の提案も考えていきたい。塾や学童保育へのニーズもあるか。

事務局：夫婦共働きも増えて、そういったニーズがでてきている。子ども園でも、0～2歳の利用が増えており、保育人材の確保が課題となっている。

委員：京都トレーニングセンターの町の関わりについて、基本はジュニアアスリートの育成を大きな目標としており、国の方では、ハイパフォーマンスセンターとの連携も進めている。スポーツ庁は、トップアスリートのためのものだけでなく、健康のために進めていくことも求められており、健康寿命を高めることも目標に進めている。

事務局：そこは、福祉医療に係ることでもあり、大切な事柄だと思う。

委員：一番大事なのは、測定となり、トレーニングを進める指標となる。

委員：トレセンにいかないと測定できないか。

委員：ある程度的人数がいる場合は、例えば、小学校であれば行かしてもらっている。

委員：住民健診などの時に利用できないか。

委員：オーダーがあれば、お受けし、相談しながら進めていきたい。

事務局：イベント時にはどうか。

委員：目的に応じて柔軟に対応していく。

委員：ゼロからやり始めるときのキッカケになるとよい。

委員：今は姿勢測定が運動する機会となっている傾向がある。

事務局：町のウォーキングアプリの利用なども含めて進めていきたい。

委員：トレセン会員は3千人ほどいるが、昨年から更新制度に変更した結果、200人程度の更新しかなかった。

委員：町外はどの辺か。

委員：南丹市などの町外からの利用もある。

事務局：地域力の落ち込みも見られるなか、活動が縮小していく状況にあるが、どのように考えておられるか。

委員：町の老人クラブの加入が少なくなっており、サロンの存在が影響を与えている。地域の組織の衰退は見られており、サロンも次の担い手がいないため、世話人が不在となる部分については、社協の職員が対応している。サロンは57個程ある。消防団員数については、退団数は入団数より多く、辞めれない環境がある。マイナス部分ばかり伝わるため、入団数が少なくなってきており、イメージを変える取り組みを伝えていく必要がある。

事務局：組織は変わっていく必要がある。